

## 音楽科 学習の手引き（1年）

### 【教科のねらい】

- ・ 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける。
- ・ 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。
- ・ 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

### 【1年間の学習の流れ】（予定）

学年	第1学年	
月	題材名・教材名	単元の到達目標
4	○オリエンテーション 「校歌」 ○音符を読もう！1	○仲間と歌う喜びを分かち合い、音楽学習への意欲、態度を育てる。
5	○歌唱による表現〈合唱Cへ向けて〉 ・歌唱共通教材	○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。
6	・合唱曲	○合唱コンクールへの参加を通して、いろいろな合唱曲に取り組み、表現力と合唱を愛好する心情を育てる。
7	♪合唱コンクール♪	○曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
8	○鑑賞「魔王」	○箏の音色と奏法との関わりを理解する。
9	○鑑賞「六段の調べ」「雅楽」	○創意工夫を生かした表現で演奏するための右手の使い方や縦譜の読み方などの技能を身に付ける。
10	○器楽「日本の音楽に親しむ」（箏）	○曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
11	○鑑賞	○創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
12	「春」	○音素材の特徴を感じ取り、反復・変化などの構成を工夫する。
1	○リズムアンサンブル（創作）	○学年・全校合唱の豊かな響きを味わうとともに、心を込めて全校で歌い上げることのすばらしさを体験する。
2	○卒業式に向けて	
3		

※学習内容は変更する場合があります。

【評価の観点と場面】

観点	主な評価の観点
① 知識・技能	・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
② 思考・判断・表現	・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

【評価の方法】

評価の対象	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業への意欲・学習態度・約束の遵守			○
授業での観察	○	○	○
実技テスト	○	○	
筆記テスト（授業内での確認テスト）	○	○	
学習カード		○	○

評価の例 A, A, A, A…5 A, A, A, B…4 B, B, B, B…3 C, C, C, B…2 C, C, C, C…1

【学習のアドバイス】

- ・普段から様々な音楽を聴き、その音楽の良さを見つけられるようにしましょう。
- ・音楽には「正解」がありません。自分の感じたことや考えたことに自信をもち積極的に表現（話す・歌う・奏でる）していきましょう。
- ・「難しそう」「つまらなそう」ではなく、「やってみよう」「おもしろそう」と心を開き、音による表現の世界へ一歩踏み出す勇気を持ちましょう。
- ・音楽室では「騒音」ではなく、「楽音」を出すように心掛けたいものです。一番大事なことは、よく聴くこと、聴き合うことです。

【使用教材・補助教材】

教科書	中学生の音楽1, 中学生の器楽
-----	-----------------

## 音楽科 学習の手引き（2年）

### 【教科のねらい】

- ・ 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける。
- ・ 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。
- ・ 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

### 【1年間の学習の流れ】（予定）

学年	第2学年	
月	題材名・教材名	単元の到達目標
4	○オリエンテーション ○音符を読もう！2	○仲間と歌う喜びを分かち合い、音楽学習への意欲、態度を育てる。
5	○歌唱による表現〈合唱Cへ向けて〉 合唱曲	○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。
6		
7	♪合唱コンクール♪	○合唱コンクールへの参加を通して、いろいろな合唱曲に取り組み、表現力と合唱を愛好する心情を育てる。
8	○鑑賞「フーガ短調」「交響曲第5番」	○曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
9	○創作	
10	「リズムでサラダ！」	○楽器の奏法をとらえ、基礎的な奏法を身につける。
11	○歌唱 夏の思い出〈共通教材〉 荒城の月・サンタルチア	○音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴を理解する。
12		○創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。
1	○器楽 箏「アンサンブルを楽しもう！」	
2		○歌舞伎の音楽の特徴を、文化・歴史や他の芸術とのかかわり、音楽を形づくっている要素などから理解して、そのよさや美しさを味わいながら聴く能力を育てる。
3	○鑑賞オペラ「アイーダ」  ○卒業式に向けて	○学年・全校合唱の豊かな響きを味わわせるとともに、心を込めて全校で歌い上げることのすばらしさを体験する。

※学習内容は変更する場合があります。

### 【評価の観点と場面】

観点	主な評価の観点
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

### 【評価の方法】

評価の対象	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業への意欲・学習態度・約束の遵守			○
授業での観察	○	○	○
実技テスト	○	○	
筆記テスト（授業内での確認テスト）	○	○	
学習カード		○	○

評価の例    A, A, A, A…5    A, A, A, B…4    B, B, B, B…3    C, C, C, B…2    C, C, C, C…1

### 【学習のアドバイス】

- ・普段から様々な音楽を聴き、その音楽の良さを見つけられるようにしましょう。
- ・音楽には「正解」がありません。自分の感じたことや考えたことに自信をもち積極的に表現（話す・歌う・奏でる）していきましょう。
- ・「難しそう」「つまらなそう」ではなく、「やってみよう」「おもしろそう」と心を開き、音による表現の世界へ一歩踏み出す勇気を持ちましょう。
- ・音楽室では「騒音」ではなく、「楽音」を出すように心掛けたいものです。一番大事なことは、よく聴くこと、聴き合うことです。

### 【使用教材・補助教材】

教科書	中学生の音楽2・3上、中学生の器楽
-----	-------------------

## 音楽科 学習の手引き（3年）

### 【教科のねらい】

- ・ 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける。
- ・ 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。
- ・ 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

### 【1年間の学習の流れ】（予定）

学年	第3学年	
月	題材名・教材名	単元の到達目標
4	○オリエンテーション ○音符を読もう！3	<p>○歌唱による表現を通じて、歌詞の内容や曲想を感じ取り表現を工夫して歌う。</p> <p>○合唱コンクールへの参加を通して、いろいろな合唱曲に取り組み、表現力と合唱を愛好する心情を育てる。</p> <p>○作曲者の思いを感じ取りながら、音楽を味わう。</p> <p>○楽器の音色に親しみながらオーケストラの響きを味わう。</p> <p>○音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴を理解する。</p> <p>○創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。</p> <p>○我が国の伝統音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解するとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <p>○声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <p>○学年・全校合唱の豊かな響きを味わわせるとともに、心を込めて学年・全校で歌い上げることのすばらしさを体験する。</p>
5		
6	○歌唱による表現<合唱Cへ向けて> 合唱曲	
7	♪合唱コンクール♪	
8	○鑑賞「ブルタバ」	
9		
10	○器楽 箏「アンサンブルを楽しもう！」	
11		
12	○鑑賞 能「敦盛」 「世界の諸民族の音楽」	
1	○歌唱 「帰れソレントへ」「花」「花の街」	
2		
3	○卒業式に向けて	

※学習内容は変更する場合があります。

### 【評価の観点と場面】

観点	主な評価の観点
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

### 【評価の方法】

評価の対象	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業への意欲・学習態度・約束の遵守			○
授業での観察	○	○	○
実技テスト	○	○	
筆記テスト（授業内での確認テスト）	○	○	
学習カード		○	○

評価の例 A, A, A, A…5 A, A, A, B…4 B, B, B, B…3 C, C, C, B…2 C, C, C, C…1

### 【学習のアドバイス】

- ・普段から様々な音楽を聴き、その音楽の良さを見つけられるようにしましょう。
- ・音楽には「正解」がありません。自分の感じたことや考えたことに自信をもち積極的に表現（話す・歌う・奏でる）していきましょう。
- ・「難しそう」「つまらなそう」ではなく、「やってみよう」「おもしろそう」と心を開き、音による表現の世界へ一歩踏み出す勇気を持ちましょう。
- ・音楽室では「騒音」ではなく、「楽音」を出すように心掛けたいものです。一番大事なことは、よく聴くこと、聴き合うことです。

### 【使用教材・補助教材】

教科書	中学生の音楽2・3下, 中学生の器楽
-----	--------------------